

製品コード

S-F402T  
S-F402TC

三菱レイヨン  
GROUP

スパウトインタイプ清水器

クリンスイス®  
据付説明書

●工事される方へお願い。  
この器具を安全に正しく工事いただくために、「据付説明書」を必ずお読みください。

## 1. 安全上の注意

ここに示した安全上の注意事項は、お守りいただかない場合、重大な結果に結びつく可能性があります。  
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●次の表示は、表示内容をお守りいただかず、誤った取り扱いをした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

注意

軽傷を負ったり、周辺の家財に損害を与える可能性のある内容を表します。

●次の表示区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止

してはいけない「禁止」内容を表します。

分解禁止

してはいけない「分解禁止」内容を表します。

指示

必ずしてほしい「指示」内容を表します。

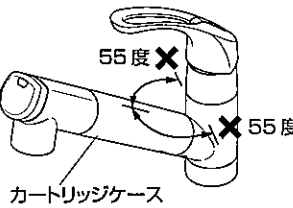
S-F402T（一般地仕様）  
S-F402TC（寒冷地仕様）

注意

禁止

製品に強い力や衝撃を与えない。  
(破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

カートリッジケースは水栓正面から左右へ各 55 度以上回転させない。  
(破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



吐水口は手やふきんなどで触れたり、シャワーヘッドを水中に没させない。  
(雑菌が繁殖するおそれがあります)

カートリッジを落としたり、強い力や衝撃を与えない。  
(カートリッジが破損・変形し、十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります)

指示

〈寒冷地仕様の場合〉  
通水試験の後、水抜き操作と水栓金具の水抜きを行う。  
(凍結により部品が破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

禁止

〈寒冷地仕様の場合〉  
水抜きユニットは水抜き以外の目的で開けない。  
(水抜きユニットをいきなり開けると高温の湯が出て、やけどをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

配管などの解氷のため解氷機を使用する場合、水栓（給水・給湯管含む）には絶対に通電しない。  
(通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らすおそれがあります)

注意

指示

配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の法令規定に準じて行う。

指示

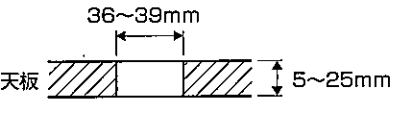
水道水の飲用基準に適合した水を使用する。  
温泉水・井戸水など異物を多く含む水には使用しない。  
(体調を損なうおそれがあります)  
(カートリッジが十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります)

禁止

〈一般地仕様の場合〉  
凍結のおそれのある場所には設置しない。  
(部品が破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

指示

ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合は、シンクメーカーに相談する。  
カウンターの適合穴径寸法は 36 ～ 39 mm、  
天板厚は 5 ～ 25 mm まで取付可能。  
(36 mm 未満の穴には取り付けられません)  
(無理に穴を開けて取付ると、家財を傷つけ、財産損害発生のおそれがあります)



止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にする。  
(点検ができないと万一漏水発生時には発見がおくれて家財などを濡らすおそれがあります)

禁止

湯水を逆に配管しない。  
(水を出そうとしても湯が出て、やけどをするおそれがあります)

指示

必ず同梱の各部品をセットして使用する。  
(部品をセットし忘れたり純正以外の部品を使用すると水漏れの原因となり、家財などを濡らすおそれがあります)

給湯器の設定温度は 60℃ 以下で使用する。  
(高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります)  
(60℃ を超える高温で使用すると、カートリッジが破損する場合があります)

分解禁止

水栓、ホース、カートリッジは分解しない。  
(破損してやけどやけがをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

## 2. 設置条件

①使用水圧  
本器具の使用可能配水管圧力は0.07～0.75MPa、常用使用圧力は0.07～0.35MPaです。

⚠ 配水管圧力が 0.35MPa を超える場合、市販の減圧弁で 0.2MPa 程度に減圧してください。

●ガス瞬間給湯器と組み合わせる場合  
給 水 最 高 圧 力……………0.75MPa  
給水最低必要圧力……………(下記参照)

| 給湯器号数 | 最低必要水圧             |
|-------|--------------------|
| 8 号   | 給湯器最低作動水圧＋ 0.06MPa |
| 10号   | 給湯器最低作動水圧＋ 0.09MPa |
| 12号   | 給湯器最低作動水圧＋ 0.11MPa |

| 能力切替式給水器で次の号数に切替えられる場合 |                    |
|------------------------|--------------------|
| 給湯器号数                  | 最低必要水圧             |
| 5 号                    | 給湯器最低作動水圧＋ 0.05MPa |
| 8 号                    | 給湯器最低作動水圧＋ 0.08MPa |
| 10号                    | 給湯器最低作動水圧＋ 0.11MPa |

以上は下記条件を想定して求めた最低必要水圧です。

- レバーハンドルは全開
- 給湯器温度調節は「高温」に設定
- 夏季水温25℃
- 給水配管長5m
- 吐水温度42℃

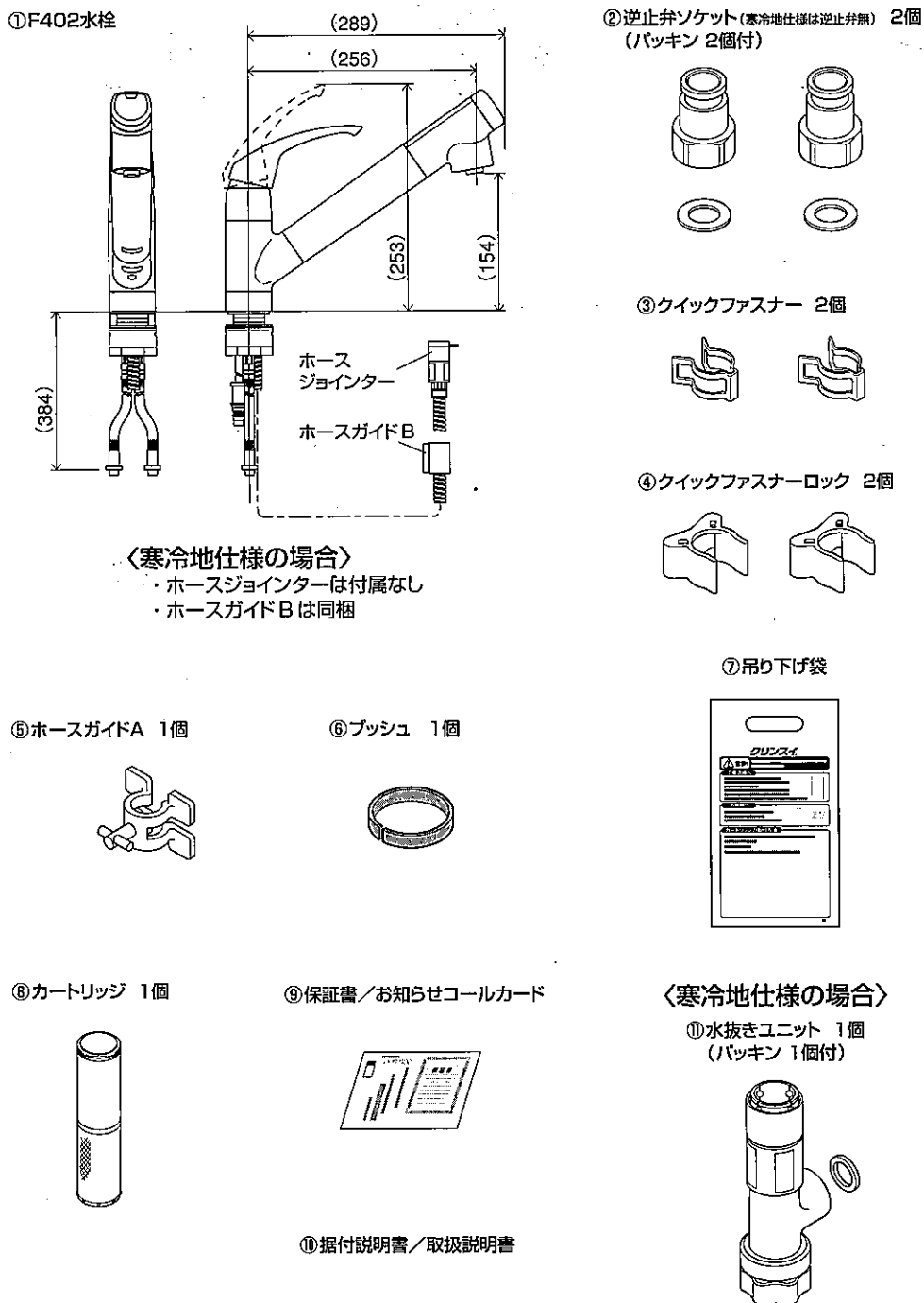
●石油瞬間給湯器および貯蔵式給湯器と組み合わせる場合  
給 水 最 高 圧 力……………0.75MPa  
給水最低必要圧力……………0.05MPa

②給水・給湯の水圧はできるだけ同じになるようにしてください。  
(極端に圧力差が異なる場合、水流音が大きくなる場合があります)  
(給湯の水圧が高い場合やけどをするおそれがあります)

③給湯器からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

### 3. 梱包部品

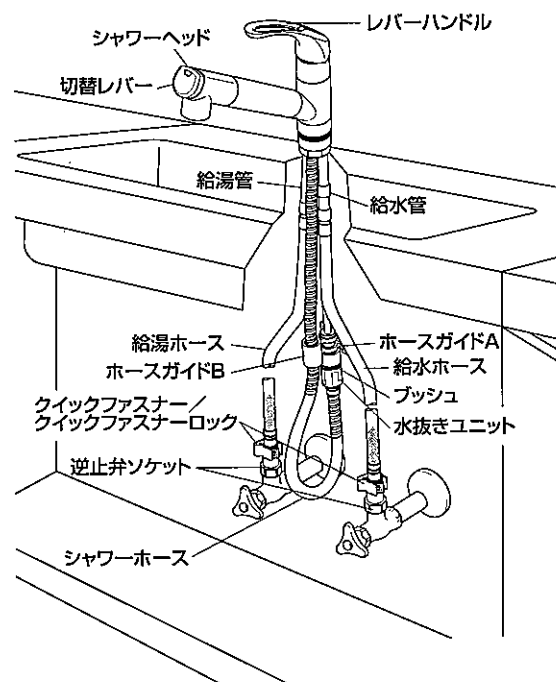
最初に下記内容部品がそろっているかご確認ください。



### 4. 器具の据付

#### 4-1. 据付場所の選定

- ① 水栓の下部 (流し台下) で、既設の配管にぶつからない場所へ設置する。
- ② レバー操作及びカートリッジケース操作スペースが確保できる場所へ設置する。

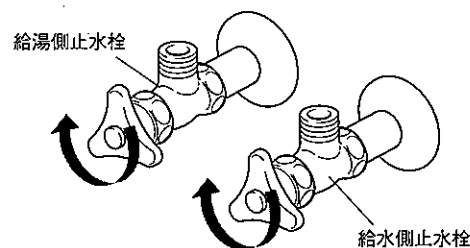


#### 4-2-1. 据付方法

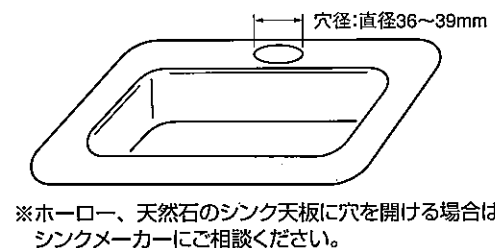
##### △ 注意

- ・給水・給湯を間違えないように接続してください。(水を出そうとしても、湯が出てやけどをするおそれがあります)
- ・一次給水側は、特に水漏れのないように確実に接続してください。(確実に接続されていないと、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

- ① 給水・給湯側止水栓を閉じる。



- ② 天板にF402水栓取付用の穴を開ける。



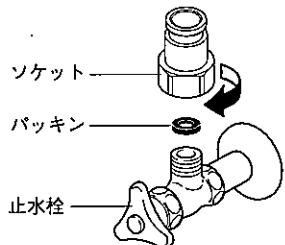
#### 4-2-2. 据付方法

- ③ 逆止弁ソケットを止水栓に接続する。

※逆止弁ソケットは、手でいっぱいに締め付けた後、モンキーレンチで締め付けてください。(適正トルク: 20N・m)

##### △ 注意

- ・水栓の配管接続部はテーパネジに接続しないでください。(接続部がゆるみ、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・パッキンが入っていることを確認してください。(パッキンが入っていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・ゆるみがないように確実に締め付けてください。(ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

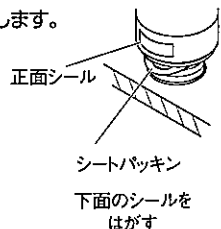


- ④ シートパッキン下面のシールをはがし、水栓本体からナット類を取りはずして取り付け穴に差し込んで正面シールが正面にくるようにして天板に押しつける。

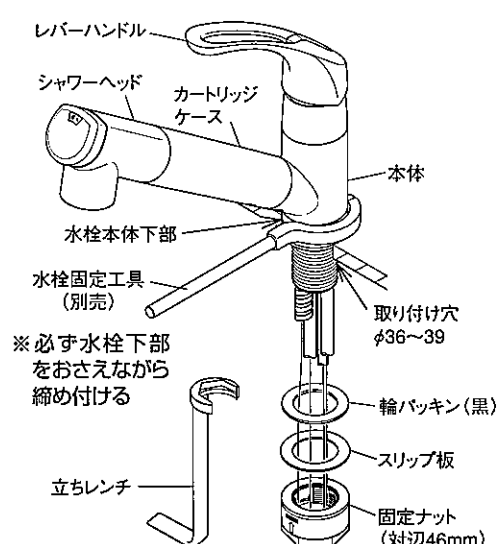
※水栓本体の取り付けは、カウンターをフロアユニットに固定する前に行うことをおすすめします。

##### △ 注意

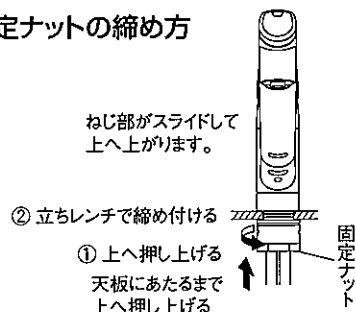
- ・水栓全体を差し込む前に取り付け穴の周囲の汚れやゴミを取り除いてください。(汚れやゴミがあると、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・シートパッキン下面のシールをはがして固定してください。(シールをはがさないで固定した場合、水栓本体と天板のすき間からの水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



- ⑤ 輪パッキン、スリップ板、固定ナットを給水管に通しナットと天板にあたるまで押し上げた後、必ず水栓本体下部を水栓固定工具 (別売) でおさえながら固定ナットを立ちレンチで締め付ける。



##### ● 固定ナットの締め方



##### △ 注意

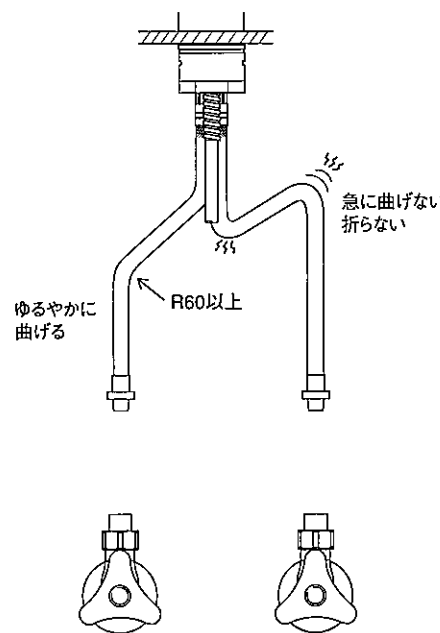
- ・ゆるみがないように確実に締め付けてください。(ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・シャワーヘッド、カートリッジケース、レバーハンドルを持って固定ナットを締め付けしないでください。(器具が破損して、けがをするおそれがあります)

#### 4-2-3. 据付方法

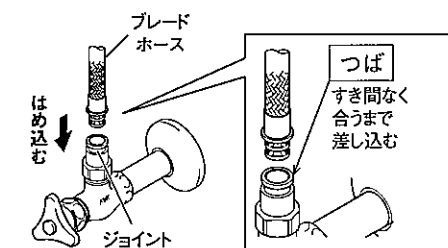
- ⑥ 給水・給湯ホースを右図のように、止水栓の取り出し芯に合うようにゆるやかに曲げる。

##### △ 注意

- ・ホースはR60以上の大きな曲げ半径で曲げてください。(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・ホースの根元に力がかからないように曲げてください。(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・給水・給湯パイプを必要以上の方で曲げて折らないように注意してください。
- ・給水・給湯パイプ同士の不要な接触は避けてください。パイプ性能の劣化の可能性がありますので避けてください。
- ・給水・給湯パイプを無理に引っ張らないでください。(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・給水・給湯管を水栓本体端面から極端に屈曲して施工しないでください。(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



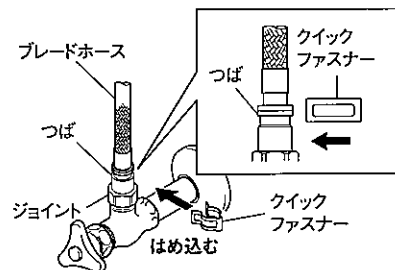
- ⑦ 給水・給湯ホースをアダプターに差し込む。



##### △ 注意

- ・湯、水を逆に配管しないでください。(水を出そうとしても、湯が出てやけどをするおそれがあります)

- ⑧ クイックファスナーを給水・給湯ホースとアダプターのつばに確実にはめ込む。

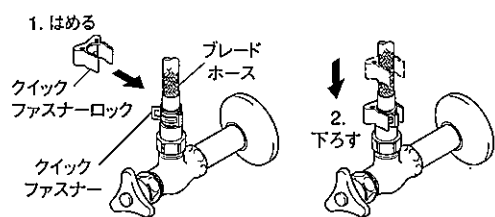


##### △ 注意

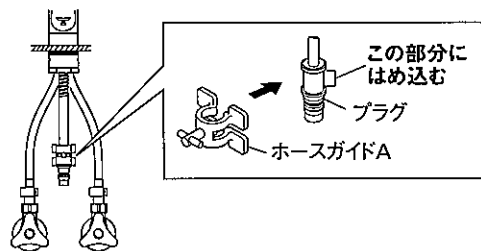
- ・ブレードホースを上引っぱって、抜けないことを確認してください。(しっかりとまわっていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

## 4-2-4. 据付方法

⑨クイックファスナーにクイックファスナーロックをはめ込んでください。この時、クイックファスナーロックはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで下ろす。



⑩同梱のホースガイドAをプラグにはめ込む。



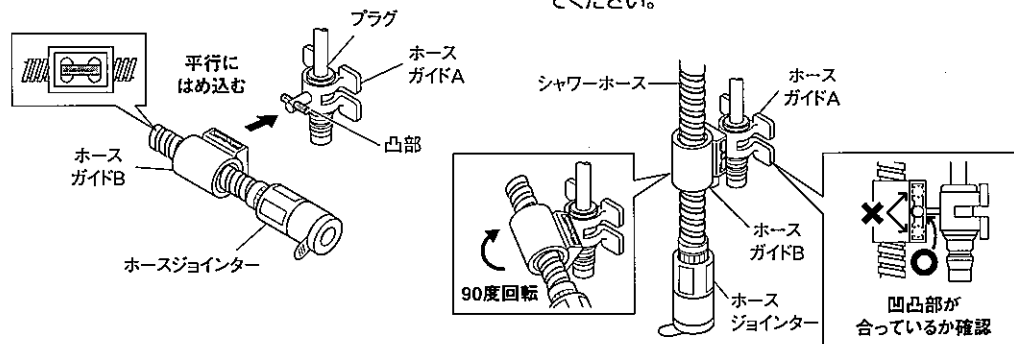
## 4-3-1. シャワーホースの据付

＜一般地仕様の場合＞

①ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめ込む。

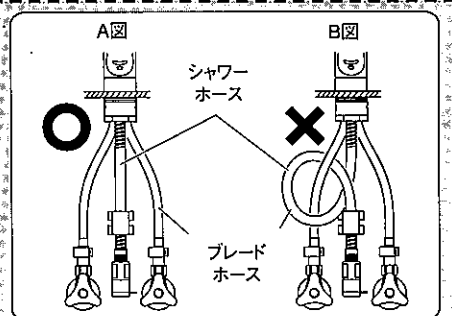
ホースジョインターが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させる。

※ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。



### △注意

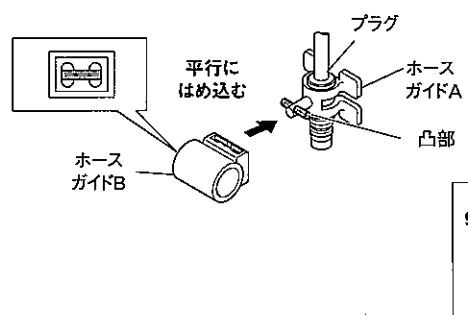
固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)  
ホースジョインターとホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安=約1N・m)



## 4-3-1. シャワーホースの据付

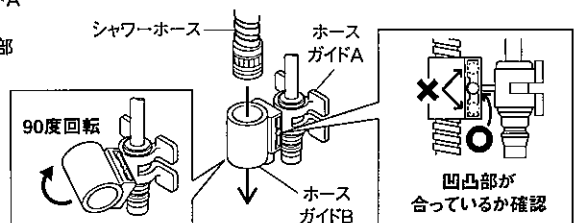
＜寒冷地仕様の場合＞

①同梱のホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめ込む。



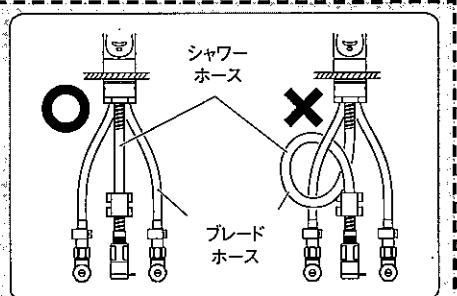
ホースガイドBを90度回転させシャワーホースをホースガイドBに上から通す。

※ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。



### △注意

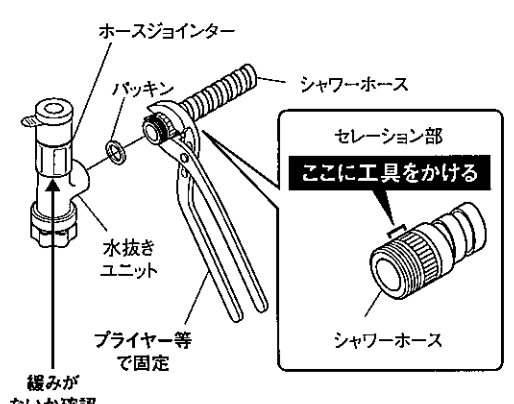
固定した際、シャワーホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)



同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースにプライヤー等で接続する。(適正トルク: 2N・m)

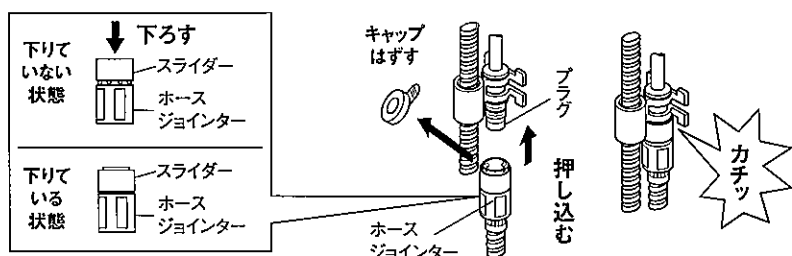
### △注意

締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)  
シャワーホースをねじらないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)  
シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)  
本体のプラグにホースジョインターを押し込む前に、ホースジョインターと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安=約1N・m)



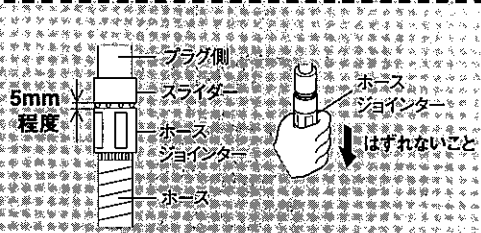
## 4-3-2. シャワーホースの据付

②ホースジョインター（寒冷地仕様は水抜きユニット）のキャップをはずし、スライダを下ろしてから、本体のプラグヘカチッと音がするまで押し込む。取り付け後、ホースジョインターを引っ張ってはずれないことを確認する。



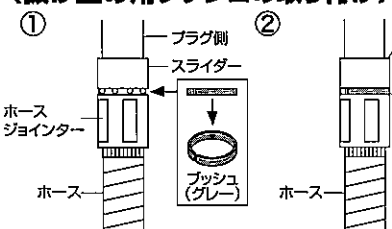
### △注意

ホースジョインター取り付け後、確実に接続されているか、確認を行ってください。(確実に接続されていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)  
スライダーが5mm程度下がってホースジョインターを真下に引っ張ってはずれないか、確認を行ってください。(確実に接続されていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



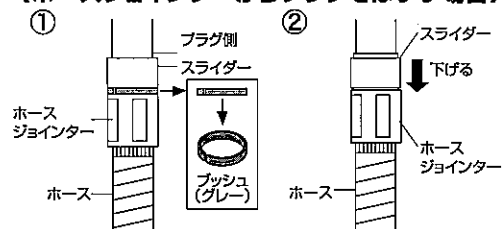
③ホースジョインターに抜け止め用のブッシュを取り付ける。

＜抜け止め用ブッシュの取り付け＞



ブッシュをホースジョインターの隙間にしっかりとはめ込みます。  
【お願い】  
ブッシュは必要以上に広げないでください。樹脂製のため破損のおそれがあります。

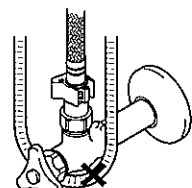
＜ホースジョインターからプラグをはずす場合＞



ホースジョインターからブッシュをはずします。  
【お願い】  
ブッシュは必要以上に広げないでください。樹脂製のため破損のおそれがあります。

④シャワーホースを引き出し、シャワーホースに引っかかりなどがなく、スムーズに引き出せるか、確認する。

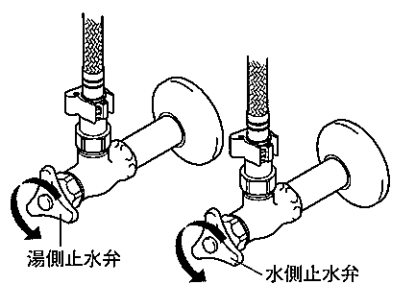
※止水栓などに引っかかり、引き出せなくならないか確認してください。



## 5. 据付後の点検

### 5-1. 配管内洗浄

①給水・給湯側止水栓を開く。

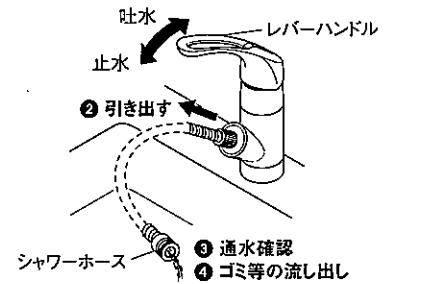
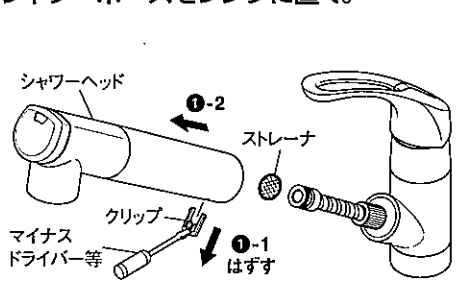


②工事中・据付中に配管内に発生したゴミを流し出す。

※カートリッジを取り付けしないでください。

①シャワーホースを引き出し、マイナスドライバー等でクリップをはずしてから、シンク内でシャワーヘッドをはずす。  
②シャワーホースをシンクに置く。

③シャワーホースを持ち、下に向けた状態にして、湯水全開で数分間吐水させ、配管・水栓内のゴミ等を流し出す。



### ●吐水口の清掃方法

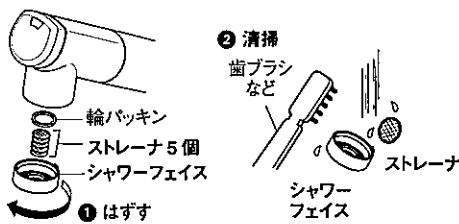
※シャワーヘッドをつけたまま、初めての通水をしてしまった場合は吐水口のストレーナも清掃してください。

①シャワーフェイスの二面幅に工具をかけ回してはずし、ストレーナ(5個)を取りはずす。

②シャワーフェイス、ストレーナをブラシで水洗いする。

※シャワーフェイスの取りはずし及び締め付けはモンキーレンチ等の工具で行ってください。

※シャワーフェイスは、締め付けすぎないようにしてください。部品が破損するおそれがあります。



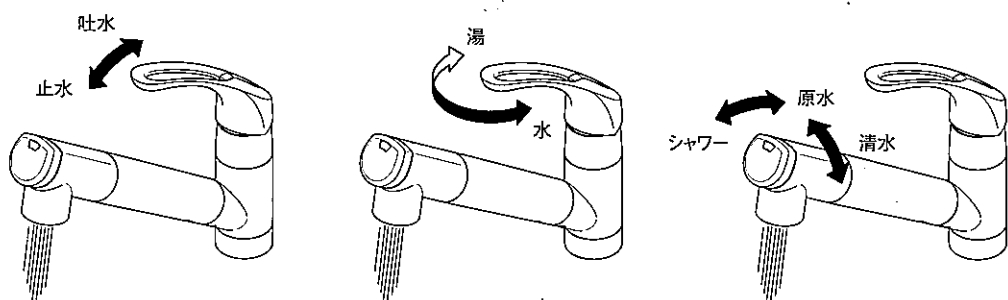
### △注意

清掃後の組み立ては確実にこなしてください。(確実に組み立てられていない場合、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

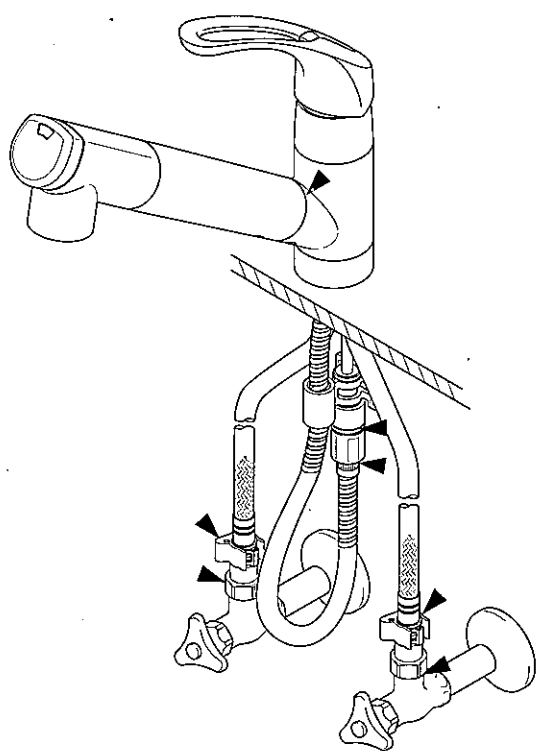
清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

## 5-2. 水漏れの確認

③レバーハンドルを湯・水及び切替レバーの清水・原水・シャワーの各位置で吐水・止水しながら繰り返し操作して配管接続部の水漏れがないことを確認する。



④矢印部分から水漏れがないか必ず確認する。

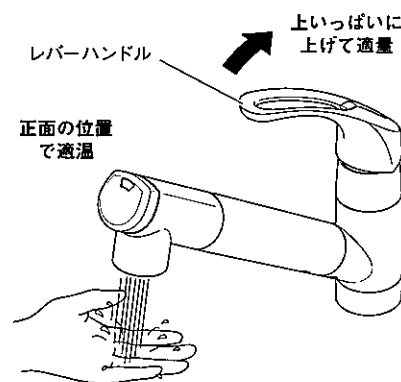
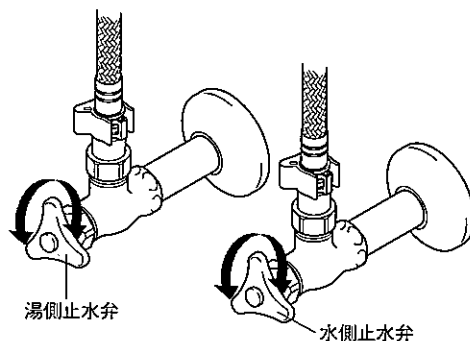


## 5-3. 温度と流量の調整

⑤温度調整・流量調整

「2. 設置条件」を再確認の上、レバーハンドルが正面を向いている位置（全開）で適温、適量になるように、止水弁で調整する。

適量の目安：レバーハンドルを湯側、水側の各位置で吐水した時、原水およびシャワーの流量が約15秒で2Lの容器を満たす程度。



### △ 注意

給湯器が瞬間型の場合、吐水量が少ないと給湯器が着火しないことがあります。レバーをできるだけ全開でご使用頂くために全開状態で、適量調整してください。

## 5-4. 寒冷地仕様の場合

### ●水抜き方法

凍結が予想される場合、水抜きを行ってください。またお客様にも水抜き方法をご説明ください。

①配水管の水抜き栓などにより通水を止めて水抜きを行う。

⑤⑥と同様に湯と水の水抜き栓を開けて、水を抜く。

②湯水の水抜き栓を閉める。

⑦シャワーヘッドをはずし、シャワーヘッド、シャワーホース、カートリッジケース内の水を抜く。

③レバーハンドルを中央の位置で上げる。

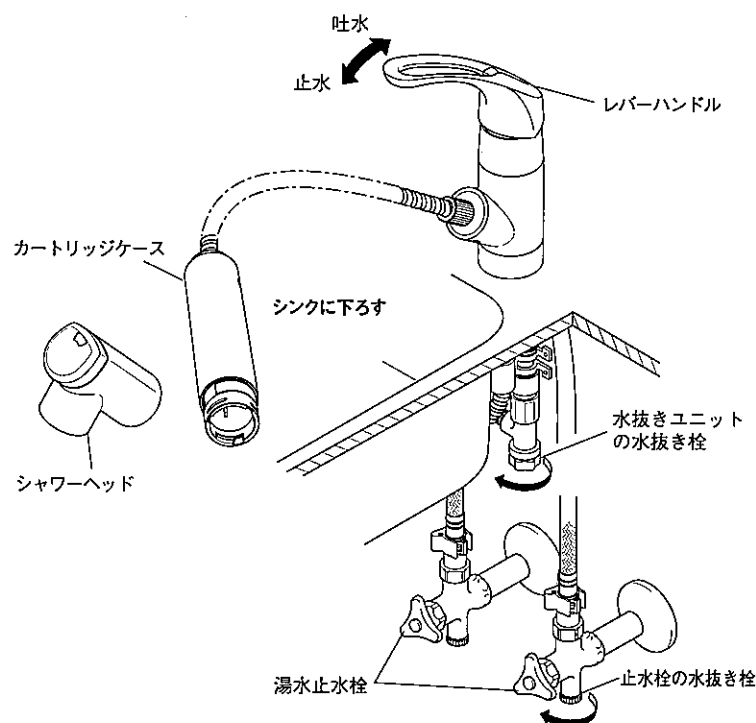
④シャワーヘッドをシンク内に下ろす。

⑧シャワーヘッドを取り付ける

⑤水を受ける容器（洗面器など）を用意し、シャワーホースの水抜き栓を開けて、水を抜く。

⑨シャワーホース／湯／水の水抜き栓を確実に閉める。

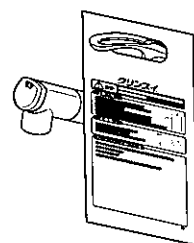
⑩レバーハンドルを下げる。



## 6. 吊り下げ袋の設置

清水カートリッジが入っている吊り下げ袋をレバーハンドルに引っ掛ける。

※清水カートリッジは施工時に取り付けないでください。水栓を使い始める直前にお客様に取り付けていただきます。



## 7. 最終点検

- ☐ ホースジョインターにブッシュを取り付けましたか？
- ☐ シャワーホースを引き出したとき、引っかかりはないですか？
- ☐ 配管内の洗浄を実施しましたか？
- ☐ ストレーナのゴミ取りをした後、ストレーナを水栓内に戻しましたか？
- ☐ 水漏れはないですか？
- ☐ 温度はレバーハンドルが正面の位置で、適温ですか？
- ☐ 流量は適切ですか？
- ☐ 寒冷地仕様の場合、水抜きをしましたか？
- ☐ 吊り下げ袋の中に「清水カートリッジ」と「取扱説明書」を入れましたか？
- ☐ 最後に、この「据付説明書」を吊り下げ袋に入れ、レバーハンドルに引っ掛けてください

お疲れ様でした。

●商品に関するお問い合わせは下記までお願いします。

三菱レイヨン

GROUP

MRC・ホームプロダクツ株式会社 クリンスイサービスセンターU係

☎0120-328-432

受付時間／平日10:00～17:00（土・日・祝日10:00～16:00）